

【総務課】

(総務係)

質問： 自治振興費の地区集会施設および周辺整備補助金なんですが、これ昨年のを見ますと、LED化を推進するよというような内容で書いてあったんですけども、そういった内容のものっていうことで、理解すればよろしいでしょうか。

回答： はい。おっしゃる通りです。LED化につきましては補助率が5分の4、それから地区集会施設周辺補助金駐車場の整備だとか、倉庫の新築だとかそういうものに対しては3分の1という補助になっております。

質問： はい。ちなみになんですけども、例えばLED化した場合に、電気料が減ったりしますよね。それで脱炭素のところでCO2削減できましたみたいなふうにできると思うんですけども、それは、何ですかね、環境課の方と連携して、何かそういう予算になってますというか、そういう話っていうのはできているんでしょうか？

回答： 目的については、そういう部分が多々ありまして、4分の3という、公立の補助になっておりますが、すいません5分の4でした。すいません、8割ですねですが環境の方とその部分でどれだけ削減できるかというところの打ち合わせまではしてはおりません。

質問： 要望ですが、ちょっと地区の施設のことなのでわからないんですけども、そういうこともこれから把握できていけるといいかなというふうに思いますので、また話をさせていただければと思います。要望です。

委員長 何か答えなくていいですか、今のことを要望するとかしないとか、嫌だとか。

回答： 委員長、話の方はちょっと伝えながら計画にもし入れるような数字があれば入れていただくように話をしていきたいと思います。

質問： 公用車の管理費の中で、リース切れとなった公用車を購入するという格好になって、大変安い17万1000円という2台ですけども、これ何年リースをしていたのかという部分と、どのぐらいの走行距離になっておるのか、またこのリース開始時にこういう購入の契約、リース日数切れとなった場合のこの購入の契約みたいなこともやっておったのがちょっとそこら辺を知りたいんですけど。

回答： ちょっと走行距離については今現在ちょっとすぐわからないんですけども、車両につきましては1台は交流センターの方に配属のもの、もう一つは包括支援センターの方に配属のものということで、当初地域おこし協力隊の活動費とか集落支援の活動費の方を使わせていただいていたのリリースということになっております。年数に

については地域おこし協力隊の任期と合わせた3年というような形でリースをしているということでありまして、その部分が活動費を使うにあたってはリースでないと使えないということで、リース契約をしております、終わった後には買うか買わないかの選択ということで、今回は引き続きそれぞれの皆さんが使用するという形で継続をしております。買取という形にしております。物によっては使わないものについては返却ということもしております。

質問： 先ほどの大島議員の関連になりますが自治振興費、私は昨年的一般質問で、ここに解体の場合の補助も検討していただきたいという要望を出してありますが、その点はどうでしょうか？

回答： はい。解体の方についても補助対象ということで、次の総代会の方に説明をしていきたい。次年度になってしまうわけですが、ただ他の周辺整備のものよりは補助率の方は低く設定をさせていただいての採用という形を考えております。

質問： クラウド電話というものは、どういった電話なんですか？

回答： はい。今現在、電話システムの方に入れてありますが、これは10年間、契約ということで毎年保守契約を砂しながらつ使用をしてきたわけですが、今年の昨年の9月に10年の保守契約の方が切れまして、延長がないということで壊れたらもうそれでおしまいということで、いずれにしても電話機のシステムの方は更新をしなければいけないということになりました。

クラウド電話につきましては、通常ですとその交換機みたいなものを置いて使用していくというものでありますが、今後クラウドの方に上げての電話ということになりますので、例えば携帯とかいろんなものを持って外に出てもそこで役場の発信番号で発信できるとか、また逆に役場に入ってきた内線をそちらに転送できるといったような機能とかあります。

あと、今現在代表番号を3001ということで、代表で受けてその各課に回すというような形をとっているわけですが、今後については代表番号も残しつつ各課への番号も振りながら、ちょっと利便性の方を上げていきたいという形を考えております。

質問： 新文書管理システム構築業務で、1700万円を計上してるんですが、これのメリットはどのように考えてます。この中にシステム構築とかいろいろあるわけですが、どういうイメージになるんでしょう。新文書って書いてあるんです。

回答： 今現在、文書管理システムというものはちょっと記憶の中で2000年ぐらいから村の方では入れて、文書の方の管理をしてきました。今現在のシステムについては2008年、約18年前に入れたものであります。文書については、それをもとに綺麗に分類されているところがございますが、もうそのシステム自体がもう古くなってしま

って、もう採用しているような自治体もないということで新たなシステムの方を今検討しておりますが、ただシステムを変えるだけではなくて、今回につきましては、文書の管理の方法についても併せてコンサルティングを入れながら見直しをしていきたいということでもあります。

まずは、庁内の文書管理に関するコンサルティング、文書の分類基準の見直しの支援、職員への説明、文書管理定着化の支援といったまずソフトの部分も今回のこの事業には入っております。

システムにつきましては、今はサーバーがここにあるのですが、クラウド化というふうにいたします。

それに合わせまして、文書の電子決済というところまで結び付けていきたいという内容になっております。

ですので、今回についてはシステムのハード部分と文書の見直しのソフト部分の方が含まれた金額ということになっております。

質問： 過去の文章。それまで、今やってるところを含めて、それからさらにその電子化データ化されてないところありますよね。そこら辺の管理は、今回これを使って何かあるのでしょうか？

回答： 今現在のデータに入っているものは全て今度新しいものに移管をするわけですが、文章として残っているものについては今後、簿冊内を精査しながらPDF化という作業を、いずれはしなければいけないのですが、今回の業務の中でそこまでのものは含まれてはおりません。

質問： 勤怠管理システムを新しく使うっていうふうになると思うんですけど、これは認証はどういうやり方をやりますか。

回答： 認証の仕方については、今ちょうどここにあるんですけど、こういうような形のカードを訂正というか自前で作ることになります。

このカードにおいて出退勤時に、タッチして、入ったデータというまずは庁内に入ったデータの管理をするのと、あとは時間外とか休暇の管理については、別で、パソコン上でそれぞれ申請をして許可を得てという形になります。

このカードがないような場所につきましては、役場で使うとそれぞれ業務で使っているシステムの中に打刻ということをするので出退勤もできるということになります。

質問： 先ほどのクラウド電話の関連なんですけども、結構今、役場から電話かかってくると、3001で携帯に表示されますが、結局出れなかったときに、一体どなたがかかったらかけていただいたのかわからないってことがあるんですけども、そうい

ったことはクラウド電話になったときに、もう解消されるわけではないという理解でいいのでしょうか？

回答： はい。また後で回しますが、各課の電話には二つ電話番号がつくようになります。3001 っていうのは、庁内全てで各各課の電話番号を持って自分の役場からかける方はこれから各課の電話番号でいきますので、逆にその折り返しいただくときは各課に来るのでこの数人で誰がかけたかなって聞けるんですけど、今のところはもう全体なので誰がかけましたかって声を書くか回ったりしてやってるので、そういうことも解消できるかと思います。一応今のところそのかけたときに不在だったときの場合のために、SMS を使って、本人が相手に向かって文字を打つようなこともしておりますがちょっとまだ全てに普及しているわけではないです。

質問： はい。ちょっと最後に一つだけ確認なんですけど、先ほどの新文書管理システムの構築業務でちょっとかなり金額でかいのと、例規のデータシステムの変更は、僕らの方の仕事にも関わってくるところがあるので、ちょっと具体的に何か話が進みそうになったときに、我々にもアナウンスをしていただけると、助かります。

回答： はい、どこかの全協の方で説明させていただくということでもよろしいでしょうか？

委員長 はい。

それでは総務系の予算について、賛成の方の挙手をお願いいたします。

はい、全員賛成です。総務系の予算については承認されました。

(広報情報係)

質問： 3 ページの広報費、今の説明にありました「情報発信全般に係る広報モニターを設置」について具体的な人数だとか、どのぐらいなのか、具体的な内容についてお願いします。

回答： こちらにつきましては、今年度から広報モニターの方を設置しておりまして公募という形をお願いしております。実際には 20 人以内ということで設置要綱を作っております、現在 14 人の方にモニターをしていただいております。

内容としましては広報誌の内容ですとか、そういったようなところの、モニターですとかそれ以外にもホームページですとか、今年度ですね回答：Iチャットボットについても少し実証ということで、ご意見をいただきながらということもありますので、そういったようなところも、令和5年度の方のモニターの方に実際に実施をしていただいた評価でしたり、そういったようなことをお聞きしているというようなところそうですね。以上でございます。

質問： ホームページの補修についてなんですけども、昨年より 53 万円ぐらい増えてるんですけども、これはどういった要因が、ありますか。

回答： こちらはですね、実際にホームページを管理しているシステムのサーバーの OS という仕組みが、期限切れといいますか、次のバージョンになっておりますので、それは機器の管理をするサーバーのシステムの更新費用ということで、かかってくるものとなります。

質問： はい。要望一点お願いします。2276 の CATV 事業チャンネル中川ですけども、中川村の場合、大体通年、今週の出来事というのが、流れてるんですが、他の伊南を見ていると、なんていうんですか企画物も流れるときありますので、今週の出来事ばかりじゃなくて、もうちょっと企画物も CATV と共同でお願いしたいと思います。要望です。

回答： こちらにつきましては、今までの経緯というところの中では毎週番組を制作してたというところもあるんですけども、直近でいくとそのチャンネル中川というところでは今週の出来事というのが平成 30 年度から平成 31 年度のところで、放送事業者としては中川村は廃止しております。

ただおっしゃる通り、それぞれ行政の中でそれぞれの課が必要として伝えていきたい部分ということもございますので、そちらにつきましては引き続き各課での発信をしたいという要望にもそいながら、一緒にですね、CEK とともにですね、番組の方を企画するというところを検討してまいりたいかなというふうに思っております。

質問： 広報費の中で、新たな AI チャットボットの構築があるんですけども、いずれにしてもこれは入れておかないといけない部分だと私も思うんですが、この回答 AI がその質問に対して、全く間違っていない回答するのかどうか、ちょっとそこら辺が心配をするんですが、万が一、そこら辺の間違った回答に対しての後の対応みたいなことがもし、間違っていなければいいんですけどもそんなことがちょっと心配されるんですがどうでしょうか？

回答： まずこちらの、あの仕組みについてなんですけれども、AI というのも種類がございまして、まず今話題になったのは生成 AI ということで、いろんな情報から、自分の AI が答えを作り出して、お答えするという部分があります。今回の AI チャットボットにつきましては、もう答えがあらかじめ村側で用意したものについて、質問の揺らぎというものがございまして、こういうような意図で質問したいというところに、その答えを結びつけるような作用をします。

ですので答えは決まってるんですけど、質問の揺らぎに対して導き出すというところで、初めはやはりその質問の揺らぎに対して、正確な答えを導き出せない部分も当然あるということもあります。そこについては住民からのこれは正しい答えではない

満足していないというような答えを元に洗練されていくというものになりますので、そういったような仕組みというところでご理解いただければというふうに思います。

質問： 今後の開始時期は令和6年度のいつごろを予定しますか。

回答： こちらにつきましては、当然ですね業者の決定という時期と、導入の予定という時期がありますので、今の想定としましては、令和7年1月からですね。

質問： その中で今、十分内容をどんどん変えていかないといけないって話その辺は簡単に行くのですか。まだ契約してないんで、、、これからですか。

回答： 正直実証させていただいたものについてはやはり全国の中で、あらかじめとかある程度質問する内容っていうのは結構多く決まっています、そこに対して行政として中川村としてというような答えっていうのをリストに入れていくような形になります。

ですので、そういったようなところでは画一的な質問と答えということになるので、あらかじめそんなに多く、毎年毎年大幅に変わるような答えがならないのかなっていうふうに思っていますので、そのところは毎年見直す中で、ここはやっぱりその制度が変わったりしてっていうところはあるかなと思いますけれども、そんなようなイメージでいます。今の段階では、はい。

質問： イメージですけど、よくホームページいろんな企業のホームページを見ると、よくあるご質問という欄があって、よくあるご質問の質問項目に回答がよく出てくるところをAIと喋らせようっていうものですが、質問を受けたとき、回答でそうですね。

回答： よくある質問というページについてそこに見に行くという作用がどうしても発生するので、そのところをこれが知りたいというのを文字で打っていただいたり選択していただくことで、やはりホームページに導き出すというのが一番多分あの正確な道筋かなといろんなところに答えがあっても、間違いがあってしまうことがあるので、ホームページのこの記事に、中を見てくださいますとかそういったようなところをリンクさせながらある程度住民の方がここで聞けばある程度簡単なところは行政の手続きはわかるよっていうところを求めて、導入したいというふうに考えております。

質問： でも時間かかりそうですね。出来上がるまで。

回答： 一度ですねその実施の中では、こういったような質問がある程度されるといようなリストを職員に示して何十件、何百件かは答えを入れてもらいました。またそれから多分かなりの件数があるので、質問の中でそれを1年ってなかなか入れ

るってのは難しいんですが、ある程度優先順位が高いものから入れていきながら、専念していきたいというふうに考えております。

質問： はい。予算書の48ページ、お願いします。

広報費の委託料のところ、ブランディングサイト更新業務、10万円およびその下の方にブランディングサイト使用料5万5000円があるんですけども、ブランディングサイトもちょっと確認ですが、ホームページ改修業務とあわせて、今後見直すということは決まっているんですか。

回答： こちらも検討の事項として検討せざるを得ないかなというふうに思っております。

質問： 要望ですが、ちょっと村の方から、あれはどうかというような声をいただいているのでぜひ、あの検討していただけたらと思います。

委員長 あれはどうかってどういう意味ですか？

委員 内容が微妙であるとか、、微妙。要するにもうちょっと何だろうってことです。はっきり言うとなんかいきなりその村長の顔があるのが何でとか。そういうようなご意見でした。ブランディングサイトですね。はい。

回答： そちらはやはりその大きな枠組みの中で考えていく部分も多々あるかなと思いますので、構築当初のときから、年数も経っておりますし、そのところはやはり、実際にはホームページのアンケートとかもやってる中でもそういったような意見も少なからずあるというところの現状の中では、トータルで考えていきたいというふうに思っております。

質問： 広報費のLINE公式アカウントについて、教えていただきたいんですけども、現在の登録者数と、あと年齢ごとのその人数の割合、以前教えていただいたと思うんです。お願いします。

回答： はい。まずですね、現在の登録者数につきましては1080人です。割合ですがちょっと口頭で申し訳ないんですけども、年齢別ですねすみません。よろしいですか。年齢別で、性別はよろしいですか。年齢別だけで。はい。年齢別ですけれども10代は0%、20代が6.3%、30代が17.6%、40代が26.7%よろしいですかね。最後になりますが50代以上が全部ずっと続きなんです、44.3%。ちょっと不明な部分、5%ありますけれどもそういったようなところでちょっと年代を増すごとに使われている率が高いというところが現状としてあります。

質問： 少ない60代から全部一緒になってるんですか。

回答： はい。

質問： 広報情報係で、登録者数目標何名ですとか、この年齢層の割合を高めたいとか、そういった目標はありますか？

回答： 基本的にはですね、全世代に使っていただきたいというのは一番はやはり災害時の情報伝達という中で、いろんな手段あるかなというふうに思うんですけども、そこはやはり多岐化といいますか、どんなネットワークが切れたり、防災無線が聞こえなくなったり、テレビが見れなくなったりとかっていうところがあるので、その手段の一つとして、やはりそのラインですとか、オクレンジャーというメールサービスを使っていただきたいと思ってます。ただその時のところで最初はオクレンジャーに今 2000 人登録されてますけれども、メールサービスというのがだんだん SNS の方に利用頻度が高まってきているという現状がありますので、そういったようなところで今のところ併用させていただく中で全世代に使っていただきたいというのがあります。

ただやはりその高齢者の方で、いろんな情報を知る手段として今の中でもシェアの中で高まっているというところがありますので、そういったようなところを、今まで広報誌でしたりそういったようなところで見てもここで見れるというようなところを意識付けさせていただく中では、高齢者のシェアを高めていきたいかなというふうに思っています。

質問： デジタル活用支援業務事業で 4 年度からやられて実績、何人ぐらいありますか。去年 5 年間で合計でもいいんですが。

回答： ちょっとすいません。あの数字がなくて、4 年度は決算報告書の中ではありませんが、5 年度についてはまだすいません集計が終わってないのでちょっと今の段階ではお答えができない。

質問： はい。何を言いたいかっていうと、80 代の方、70 代後半から 80 代の方が相当数おまして、デジタルスマホを含めて使えるようになったと。いう話があってラインが使えるようになりました、と言う方が相当数出てきて、継続してもらいたいということなんで、今年度 6 年度ですね。しっかりとそれも含めて、対象者を増やしていただけるような広報をしっかりやっていただきたいと、いうふうに思います。それで、要望です。

質問： それから、デジタル人材の育成ってことで各課で養成をしてくと、核となる人だと思んですけどこれはその 90 万円で何人ぐらい予定してるのか。

回答： すいません、9 万円なんです。こちらですが各課に 1 人。養成とあとは、職

員の中で意識と申しますか、これを受けたいこういうふうにやっていきたいという方も募集しまして12人という想定であります。

質問： これ12名で計算されたと思うんですけど、9万円で足りるんですか。

回答： 実際に試験費用としてはそれで足りると思います。ただちょっとすいません、当初の計画の中では、どこまでこのデジタル人材の育成を1年間の中で、進めていくかというところもありますし、今の枠組みの中でもこの試験だけではなく、講演会ですとか研修という中の枠組みの中で、県の研修ですとかそういったようなものを活用できますので、予算をかけずに研修ができるものと、予算を確保して意識的にやっていただく部分ということもありますので、当年度としましては、ここまでが費用としてしている部分という認識でお願いしたいと思います。

質問： 広報のところでホームページの再構築検討事業っていうのを、5年度からやっておられると思うんですが、何を言いたいかっていうと、見やすくなったっていう人が、私が村外から来た方もかなり増えて、それで今年度6年でやる上において、いろんな人の意見っていうのを聞き取りした上で、新たに作ってこうしてるのかその辺の考え方をちょっとお聞きしたいですね。

回答： 現状どこまで住民の方ですとかから意見をいただいたり、把握しているかというところにつきましては、令和4年度の末に一度ホームページについてのアンケートを実施しております。

それから庁内の中でも、ホームページの行政的な手続きをどうお示したらいいのかというのをまとめまして、ホームページの再構築検討委員会が、12月から今2回行っております。

今度、またモニターの方にも、1年経っておりますので、ホームページの今の状況っていうのをアンケートをいただきながら、日々変わるところがどうしてもありますので、そういったところを広くですね、委員さんと、あと住民の方、モニターの方に意見をもらいながら、現状として6年度、どういうふうな形に落とし込むかというところを考えている最中でございます。よろしく申し上げます。

他にご質問は。

それでは、総務課広報情報係の予算案について賛成される方の挙手をお願いします。

はい、全員です。総務課広報情報係の予算案は承認されました。

(危機管理係)

質問： はい。5ページの地区防災マップ作成支援業務委託のところにあるんですけ

れども、その関連なるんですけれども、現在その中川村に、外国籍の方が何名かいらっしやるかと思うんですけれども、例えば技能実習生とか、そういった方には地区防災マップのことであるとか、あるいはハザードマップのことであるとか、例えば大地震が来たときにどうするかみたいなやさしい日本語のパンフ、パンフレットみたいなものであるとかそういったものは情報として配布等されているかどうか、お伺いしたいです。

回答： 委員長。今現在そのようなものを配布はしておりません。

質問： そうすると例えばその技能実習生を受け入れている企業の方であるとか、そういったところにも特にそういう方にもお知らせしてくださいねみたいな周知も、特に村の方から働きかけていないという理解でよろしいでしょうか？

回答： はい、村民の皆さんにお配りをして、それぞれ地区とか様々な防災訓練等で、説明をしておりますが、企業の皆さんのところに出向いての説明というようなところ今現在はしておりません。

質問： 今回の能登の地震ですとか、やっぱり日本語がわからないということどこに逃げたらいいかわからないとか、あと備蓄がなかったために食べるものがなくなったとかそういう話を聞いておりますので、今後検討していただいて、一応役場を通られると思いますので、そういったときに情報を提供するような機会を作っていただければと思います。

回答： はい。今いただいた意見については持ち帰って検討させていただいて、必要かなとは思いますが、検討させていただきたいと思います。

質問： はい。今と同じくハザードマップのところですけども、あの避難所の関係で、小和田地区と飯沼の集会所、あそこが避難所になってるんですが、あそこは土砂崩落の危険地域でもあるんですけど、他の避難所は大丈夫かと思うんですけど、その点ハザードマップ更新についてご検討はありますか。

回答： 小和田の避難所については確かにそういうことで実際として今避難しているのは、避難所を開設する場合には片桐区民会館の方で行っております。飯沼につきましては下のお宮ですか、その方を実際として使うということでもありますので、ちょっとその部分は元の計画にも載っておりますので、そこも含めてちょっと検討させていただきたいと思います。

質問： 今の関連で地区防災マップのところ、より住民がその地区のものが入って全部作ってますので、今のところ、まさに重要なとこなので、連携をしっかりとっていただきたい。

回答： 特に小和田はこれから作成をするところですので、その部分は当然その小和田の方からもそういう要望がありますのでその辺は配慮していきたいと思いません。

質問： あの中川村のハザードマップの更新について県からの変更によってやるってことだと思うけども、これを地区への周知徹底はどのように考えてます。

質問： はい。すいません、具体的なところはちょっと私の方も承知をしておりますが、いずれにしても配っただけでは済まないものというふうに思っておりますので、何らかの機会を通じて詳しいというか、説明をしていく必要があるかというふうに思っております。

他にありませんか。

それでは危機管理係の予算について賛成される方の挙手をお願いいたします。

はい全員です。これで危機管理係の予算について承認されました。